



保護者会通信

2014年(平成26年)3月25日 No.10

編集・発行
京都ノートルダム女子大学
保護者会事務局
〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町 1
TEL:075-706-3700 FAX:075-706-3707
e-mail: hogoshakai@notredame.ac.jp



副学長ご挨拶
京都ノートルダム女子大学
副学長 片山 裕

本年1月に副学長として就任いたしました片山裕(ゆたか)でございます。まだ皆様とは直接お目にかかってお話しする機会がございませんが、なにとぞよろしくお願いいたします。

京都ノートルダム女子大学は、学部・学科のあり方を見直し、グローバル化時代に必要とされる人材をより多く生み出していくこと、全学を挙げて改革に取り組んでいます。人間文化学部、生活福祉文化学部、心理学部と、特色の異なる3つの学部からなる本学です。その作業には当初予想していたより多く時間を要しています。しかし、大学をさらに良いものにしたという思いは、すべての教員・職員の共有するところ。グローバル化時代にあふらしい人材といえます。国連機関の職員、途上国のスラムや紛争地帯で活躍する



会長退任挨拶
京都ノートルダム女子大学
保護者会会長 二田村 淳市

早いもので、私が北村前会長より伝統ある本学の保護者会会長という大役を引き受けしてから一年が経ちました。

福井という地方都市に住んでいる私に会長職が務まるのかと不安に思いつつ、この一年は色々な経験をさせていただき、貴重で意味ある年となることが出来ました。

浅学非才の私がこの日を迎えることが出来たのも、力強くサポートしてくださった保護者、役員の皆様のご協力や大学関係者のご指導、お力添えの賜物と感謝しております。また、会長職を含め4年間役員を務めさせていただくことにより、事業を通して沢山の人

る日本人女性を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。そうした人材も将来輩出できたらと考えておりますが、当面は、海外で事業展開する日本企業をターゲットに、必要とされる女子社員を育てたいと個人的には考えております。

そのような職場では国内勤務であっても、現地の人達と、英語などを通じて一定程度の意思疎通がはかれ、文化や価値観の異なる人たちと心を拓いて理解し合い、信頼関係を築き、共通の目的のために、ともに努力することが必要不可欠です。

それには、英語を中心とした語学力、どんな仕事にも短い期間の訓練で対応できる基礎力(教養)、そして、信頼関係を築き、人的ネットワークを広げられる人間としての基礎力(マナー)を身に付けていなければなりません。私どもが考える

「グローバル人材」とは、そうした人間としての基本的ないくつかの力を持つ人々を指します。

現在日本の企業は大企業、中小企業を問わず、急速な速度で海外展開をしています。当然、海外からも外国人を採用して、需要を満たすとしていきます。しかし、企業の人事担当者の本音を聞きますと、やはり、できれば日本人を採用し、外国人と競い合いながらも、日本(人)の良さをアピールできる人が欲しいとのことです。こうした需要は今後ますます高まることが予想されます。

京都ノートルダム女子大学は、設立以来、まさにそのような女性を多く世に送り出してきました。グローバル化の進展する今日にあって、改めてその原点に立ち返り、これまで以上にノートルダム精神を身に付けた女性を生み出したいと思っております。皆様の今後ますますのご支援をお願いして、ご挨拶に代えさせていただきます。

学校舎の見学をさせていただき、充実した施設・素晴らしい環境の中で子どもたちが学生生活を謳歌するものと確信しました。また、片田学長との懇談の場を持たせていただき、「一人ひとりを大切に」という教育理念を拝聴いたしました。この学長のもとで教育を受ける子どもたちは「徳と知」を備えた人材に育っていくことも、改めて確信した次第であります。

最後に、やり残し、中途半端でことを終えた事業もあったかもしれません。次年度の保護者会や役員の皆様へ、ご迷惑をおかけすることと思いますが、子どもたちのための保護者会活動が充実できますよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。本場にありがとうございました。

「北山キャンパス総合整備計画(大学)」の工事進捗状況について ＝新本館完成とその後の整備に向けて＝



創立50周年記念事業の一環として進められている北山キャンパス総合整備計画において、本年2月末に新本館(地下1階地上4階建、延床面積9,754㎡)が竣工いたしました。

キャンパス整備は、「建学の精神と現代教育ニーズを的確に捉えた大学教育拠点の整備」、「学生が主体的に学びを深めるための機能を備えた新校舎」をコンセプトとして、特に、デザインにおいては、カトリック系女子大学の清楚で堅実なイメージと現代性を併せもつデザイン(アイデンティティ、ブランディング)及び聖堂を正面に取り込んだ象徴的なデザイン(シンボル性)、また、施設構成としては、学生・教員が活き活きと活動でき、交流を育む開かれた環境づくり(コミュニケーションの活性化)、求められる複数機能を融合し互いに相乗効果を高める施設づくり(クロスファンクション)、地域住民をはじめ、全ての人に開かれ使いやすい施設づくり(ユニバーサルデザイン)、さらに、教育・研究・学習環境の構築として自主性を尊重した学習と知識創造のための総合的な環境づくり(ラーニングコモンズ、アクティブラーニングスペース)、大学生活をより豊かなものにする快適な環境づくり(アメニティ、サポート施設の充実)、情報技術や環境配慮技術など先進的な取り組みによる環境づくり(IT、屋上緑化等)を重点的に整備しました。

新本館は大学施設の中心的な役割を担いますが、外観は既存建物との調和を図りながら、旧ユージニア館の面影を継承しつつ、キャンパスの象徴となるエントランス部分に柔らかな曲線のガラス・ファサードを採用し大学の顔に相応しいものとなっています。

新本館の主な施設内容については、(株)梓設計の担当者とキャンパス整備委員会をはじめ関係教職員と綿密な打ち合わせを重ねて進めてきましたが、本学ならではの特徴ある充実した教育・学習環境が構築できました。図書館や聖堂、様々な講義室、情報演習室、



食堂、学生ラウンジ、イマージョンスペース等、多様な機能で構成されておりますが、これらはゆるやかにゆとりのある内部空間でつながれており、キャンパスライフをより豊かなものにする明るく居心地のよい学びの環境をつくることともに、教育理念に相応しい清楚で堅実なイメージの新しい校舎となっています。

本年4月以降は、既設ソフィア館の耐震改修をはじめ、残る他の改修工事に取りかかり、最終的に開放的で落ち着いた中庭空間とともに魅力あるキャンパスが平成27年2月に完成する予定です。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願いします。

事務局長 下地 隆

お別れ会と新校舎移転のお知らせ



2014年4月、図書館情報センターは新校舎のユージニア館へ移転することになりました。1968年に図書館棟が完成して以来約45年間、学びの場として長きにわたり慣れ親しんだソフィア館の図書館と、お別れです。移転のための臨時休館に入る前日、2月6日に「図書館お別れ会」を行いました。閉館後の17時からわずか30分のお別れ会にもかかわらず、図書館の発展にご尽力いただいた先生方や諸先輩方にご尽力いただき、多くの教職員、学生の皆さんが集まってくれました。須川いづみ図書館情報センター館長から思い出さなければいけないことをいただいた後、図書館棟の竣工の様子をスライドで映し出し、当時の図書館の様子や、初代学長で図書館長を兼任されたシスター ユージニアのお姿を皆で懐かしく拝見しました。また学生有志「ライブラリー・メイト」による「あなたにとって図書館とは」と題したミュージックビデオの上映など、楽しく心に残る会となりました。

さて、新しいユージニア館では地下1階と、1階および2階の一部が図書館情報センターとなります。食堂等の厚生施設や教室に隣接し、動線が短く来館しやすくなりました。そして新しい設備環境により、次の4つの課題を実現します。1つ目は、



新図書館(ラーニングコモンズ)

「お問い合わせ先」
図書館情報センター図書館事務室
電話: 075-706-1357
FAX: 075-706-1375
E-mail: library@notredame.ac.jp
図書館事務室長 森雅子

キャリアセンター便り

今年度のキャリアセンターの活動や、学生の就職活動状況について、ご報告いたします。

平成25年度スタートの新たなキャリア支援プログラム

従来から毎週水曜日の夕方に開講していますキャリアガイダンスとは別に、併行して金曜日に「就活力UP 特別講座」を10月より15回開講しました。主として3年生を対象に、基礎学力試験（SPI）対策やグループ面接対策など、本学学生の弱点に的を絞ったより実践的な講座です。このうち8回シリーズで開講しましたSPI対策講座には、毎回40名前後の学生が参加しました。

2つ目の取り組みとして、低学年を対象とした「企業訪問バスツアー」を実施しました。これは企業で働くイメージを明確にもって就職活動に取り組むことが重要であることから、職場の様子を自分の目で見て、直接話を聞く機会を提供しようと企画したものです。訪問企業は阿蘭梨餅で有名な「株式会社 満月」、プライダグル業界から「株式会社 Plan・Do・See」、そして「株式会社 ワコール」。2月14日のツアーには17名の2年生が参加しました。

平成25年度就職内定状況

本学の平成26年3月卒業予定者の就職内定率は、3月

12日現在で87.2%です。新聞各紙が報道する文科省と厚労省による就職内定状況調査のデータではもっと高いことから、上記の数字は保護者の方にとってはご心配かと思います。全国調査は私立大学を含むもののどちらかといえば国公立大学中心に抽出した大学データによるものであるうえに、本学データについても、「内定」を獲得したのにキャリアセンターには報告していない学生がかなり存在するなど、厳密には比較できません。また、本学の有力キャリアパスである教員や保育士、福祉施設職員の内定は、冬以降に本番を迎えます。

とはいえ、卒業式間近でも、「内定」をもらえない学生が少なくない状況を、キャリアセンターでは重く受け止めています。最近の学生には、1,2度の採用選考に落ちただけですぐ就活をあきらめてしまう傾向がみられます。「粘り」や「こだわり」、あきらめない「強い意志」に欠ける学生が非常に多いことが気になります。

明るく誰にでも好かれる性格なのだけでも、面接に際し今一つ押しが弱い学生がいました。京都の優良企業を中心に何社も試験を受けてはすべてきます。それでもその都度キャリアセンターに報告に来て、面接対策のレクチャーを受ける、そのひたむきな姿に、センター職員一同、絶対に内定を取らせてみせると精一杯の支援をしました。その結果、4年の秋も深まった頃、ようやく内定がもらえたのです。しかも結果的に大学で学んだ専

門性を一番活かせる会社に。今年度印象に残った学生です。

今後の就職支援について

平成27年度卒業予定者より、現在12月1日解禁の会社説明会が3月1日から、4月1日からだった選考が8月1日からとなります。この変更をにらんで、今、平成26年度の3年生向けキャリアガイダンス日程を計画しています。日程が先伸ばしになった分の時間的余裕を、企業研究や自己分析、さらには基礎学力の養成にあてるよう指導することを考えています。この学年は、キャリアセンターが開設された第1号の学生になります。彼女たちの就活成果を期待したいところです。

先の例にあげた学生のように、失敗にへこたれないねばりやひたむきさが大事であることを、就活のノウハウを指導する以前に、まず学生に強調しておきたいと考えています。そのうえで、女性が安定的に活躍できる会社かどうかをきちっと自分なりに評価して、就職希望先を決めるように指導していきます。「真摯な企業研究とひたむきな就職活動をしている学生には絶対に内定を獲得させる！」小規模で個別対応ができる本学キャリアセンターならではの就職支援を心掛けていきます。

平成25年度キャリアセンター所長
生活福祉文化学部 中村 久美

平成26年度 総会・地区教育懇談会

以下の日程で開催予定です。どうぞ今からご予約ください。多くの方々のご出席をお願いいたします。

総会：平成26年6月15日(日)

地区教育懇談会：10月4日(土) 京都会場（本学）
5日(日) 未定

詳細については、事前に郵送にてご案内をお送りします。

平成25年10月27日 保護者会バザー開催



本年度も第8回目となる保護者会主催バザーをマリア館ガイスラーホールにて盛況のうちに終える事ができました。多くの皆様のお力添えによる賜物であったと感謝しております。保護者や卒業生の皆様、教職員の方々よりたくさんの寄贈品を賜り、近隣の皆様や本学関係者の方々にはたくさんのお買い物をしていただき賑わいのあるバザーになりました。おかげをもちまして多くの収益を上げる事ができました。

ご寄贈を賜りました多くの皆様、お買い上げいただきました多くの皆々様に、心より感謝申し上げます。事前の準備から当日の販売、最後の片付けまでお手伝いいただきました関係者の皆様にも、紙面をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。

平成25年12月6日 ND祭バザー収益金贈呈式



本年度のND祭バザーの収益金は138,836円になりました。

この収益金につきましては、前年同様「京都ノートルダム女子大学東日本大震災被災者特別支援制度」で入学した3名の学生と、昨年9月16日に初の特別警報が発令された「台風18号特別警報舞鶴市床上浸水被害」対象学生1名の計4名に学習支援金として贈呈されました（バザー収益金を4名に均等に贈呈）。

昨年12月6日(金)12時45分より、本学学長室においてバザー収益金の贈呈式を行い、三田村淳市保護者会会長から4名の学生に手渡されました。



編集後記

創立50周年記念事業の一環として進められてきた新本館が本年2月末に完成しました。外観は既存建物との調和が図られ、正門に面した柔らかな曲線のガラス・ファサードのエント

ランス部分がキャンパスの象徴となっています。この新本館で学ぶ学生の皆様の学園生活がより充実し学習成果に繋がることを期待します。キャンパス整備に伴い、社会の要請や

時代に応えた魅力ある学部学科づくりに向け、更に充実させるよう教職員が一同となって取り組んでいますので、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。
(S・T)

本年の「第13回カトリック女子総合スポーツ競技大会」は、平成25年11月30日(土)・12月1日(日)の両日、聖心女子大学・ノートルダム清心女子大学・白百合女子大学・清泉女子大学・京都ノートル

ゲーム女子大学の参加のもと、本学にて開催されました。京都ノートルダム女子大学は総合成績で準優勝を果たしました。それぞれの種目の成績は次のとおりです。

硬式テニス…3位
バレーボール…2位
バスケットボール…3位
バドミントン…3位
ご声援いただいたみなさま、ありがとうございました!!

「第13回カトリック女子総合スポーツ競技大会」 総合成績で準優勝



イマージョンスペース 一学内留学を実現するー 英語英文学科より



文部科学省では「グローバル人材育成」が推進されていますが、これまでも本学では各学部・学科ごとの取り組みが行われてきました。たとえば、英語英文学科では「ANAエアラインプログラム」や「医療サポート英語プログラム」など、全学部では留学生の受け入れや全学的に短期海外研修などを積極的に展開しながら、グローバル社会で活躍できる女性の育成を目指してきました。また、日本語教員養成課程の学生は海外の協定大学等において日本語教育実習を行ってきました。

平成26年度以降、全学的な取り組みとしてグローバル人材育成をより推進していくために、全学部・学科の学生に対する国際教育の推進に取り組みます。その一環として、学生の海外留学を促進する組織的な教育支援体制の強化、海外インターンシップのさらなる充実を図る予定です。

イマージョンスペースは、理想的な英語グローバル教育を推進する鍵となる学内留学環境を提供するため、平成26年2月完成の新ユージニア館3階に設置されます。スペースは多目的オープンスペースと4つの語学専用教室で編成される複合施設となっています。大型モニターやミニキッチンが設置され、モニターからは常に英語が聞こえてきます。隣接して教員控室とラ



ウンジが設置され、英語母語話者による指導や助言が得られる体制を確保します。オープンスペースは全学部・学科の学生に開放されますが、特にグローバル英語コース学生は留学前後の2セメスター、ほとんどの授業とアクティビティをこのイマージョンスペースで行います。

オープンスペースではいくつかのアクティビティを用意して、全学部・全学科の学生がいつでも英語で話せる環境を提供します。学生の関心やニーズを知るために、平成26年1月に、チャロライン館アッセンブリーホールを会場にし、在学生に対する4週間トライアルを実施しました。外部講師のAndrew先生とRomy先生が、アッセンブリーホールに、火曜日から金曜日の午後3時間常駐した結果、学内教職員の協力も得ながら14日間で115名の学生の参加を得ました。内訳は英語英文学科生57名、人間文化学科生19名、生活福祉文化学部生14名、心理学部生17名、不明8名で、その中には留学生、海外留学経験者、短期海外研修参加予定者も含まれていました。学生からは「話やすい」「宿題を教えてもらった」「楽しい」「英語がうまく話せなくても参加できた」など概ね肯定的な意見が得られましたが、レベルの違いや時間帯など問題点も明らかになりました。トライアルの知見を生かし、より多くの学生のみなさんの学内留学を実現する「英語漬け」環境を模索しながら提供していく予定です。

人間文化学部英語英文学科 准教授
東郷 多津

聖堂お別れミサ

旧ユージニア館聖堂において、2月18日に米田彰男神父様の司式で「聖堂お別れミサ」が行われ、長年にわたって学生の祈りの場であった旧聖堂における最後のミサとなりました。旧聖堂では、学生のための月例ミサ、アドベントリース点火式、追悼ミサ、前期卒業式等が行われてきました。旧聖堂の美しいステンドグラスは新ユージニア館3階の新聖堂に移され、4月1日からは新聖堂で学生のためのキリスト教行事が行われます。

カトリック教育センター Sr.中里 郁子